

DA・M インプロヴィゼーション Theatrical Improvisation ~for resistance

アルク / Walking

2014

今、ここ、を、かき乱す、東の間の肉体と精神の興奮

“Aruku” is fleeting excitement of body and mind, stirring up this time and places

2014.3.18 tue~22 sat Proto-Theater フロト・シアター

監修・演出 Director 大橋宏 Hiroshi Ohashi
構成・出演 Performer 中島彰宏 Akihiro Nakajima
原田拓巳 Takumi Harada
宮地成子 Nariko Miyaji
小椎尾久美子 Kumiko Kojio
+ 洪承伊 Hong Seung-Yi (Korea)
梁天尺 Leung Tin Chak (Hong Kong)

助成 supported by 日本芸術文化振興基金 JAPAN ARTS Council
企画・制作 produced by DA・M



まだ広く散らばる瓦礫の中で、ポツンと一人老人が、じっと何かの上にこしかけていた。足元には、少しの品々が集められていたようにも見えた。その老人の時間はあの時「3.11」から止まっているのだろう。僕はそこを訪れていないが、この話を聞いたとき、同じく、13年前の出来事「9.11」を思い出す。その映像を前に、それを受け止めるための言葉がない。一体何が起きているのだ。がしかし、否応なく、ただひたすら茫然と立ち尽くすしかないそれら現実を前にして、それをやりすごすために、世界にはまるで何も起きなかったかのように、またわたしたちの「日常」は続いていく。その前進が、それがもしわたしたちを生かし続けていく社会の知恵であり政治の策謀であり資本の欲望なのだとしたら、僕は自らの自由を、決してその前進に寄り添うためには消費したくはない。むしろ、その前進を阻むよう最前線に出て、力ある限り抗い続けたい。

アルク / Walking 2014

だれかがじっと 遠くをみつめている	Someone is staring still faraway
シリアの子供たちは泣きやんだらろうか？	Wonder if Syrian children have stopped crying.
今日はわたしの誕生日 / 6つの墓標	Today is my birthday / "Six grave post"
難民	Refugees
"dada"をこねる だから？	Eat "dada", So what?
「私は見たヒロシマを」 「見ていない。あなたは見ていないヒロシマを」	I saw Hiroshima". "No . You didn't see Hiroshima".
老人はまだあそこに座っているのだろうか	Is old man still sitting there?

※本公演詳細「舞台構成」は劇団HPにて後ほど掲載します。

もう一人の参加者とともに

本作品は、初演の1997年フランスアビニョン国際演劇祭 (Off) 以来、東京、キルギス、インドネシア、香港と公演を重ね、その時々の“歩行”の内容を変えながらも、文字通り沢山“アルイテ”きました。そして前回の本公演が「3.11 東日本大震災」の直前になってしまったのですが、沢山のイベント開催が自主規制され中止になっていくなか、この「Aruku」公演を迷わず押したのが八重樫聖 (2013.3.20永眠 享年57) でした。その時すでに彼女の体が癌におかされたことは本人もまったく知りませんでした。結局、初演以来すべての公演地を歩いてきた八重樫のDA・M最後の舞台になってしまいました。誰よりもこの舞台が好きで世界中の人と世界中をアルキタがっていた彼女の願いが少し叶ったのか、今回初めて海外からの参加者を迎えます。この作品の稽古場はいつも不安の極みになっていきます。それをきくと彼女は天国から羨ましそうに見ていることでしょうか。この場をお借りして、観客の皆さま、これまでこの舞台を支えて来てくれました方々に感謝いたします。今回また新たな景色がご覧いただければ幸いです。どうぞごゆるりとご観覧ください。

参加者一同 / DA・M 大橋宏

出演者

Leung Tin Chak

香港舞台芸術アカデミーにて演技を学ぶ。ジャッキー・チェン チャリティ基金等の奨学金にて、ヨーロッパおよびアジア各国にて多数の外国演出家と様々な舞台創作を経験する。他太極拳、永春拳、ヨガ、霊気、音叉等一心一体を実践する。一昨年香港でアルクを観て今回初歩き。

Hong Seung-Yi

労働活動家を経て、2000年Labour Culture Art Troup ILTERにて演劇活動を開始。2008年劇団SHIIMを釜山に設立。近年は、イスラエルや台湾の演出家の公演に携わる。DA・Mには昨年に引き続き2回目。釜山自宅周辺の山道をいつも歩いている。東京にも民家の庭先に同じ景色がある。

小椎尾久美子

パフォーマンスユニット「Bebe⇄ビビ」メンバー。多様な企画作品に出演、主にダンスを用いた身体表現を続ける。2011年よりAsia meets Asia, DA・Mに参加。今回一杯アルク。でもその後は好きなハイボールで一息。そしてまた歩く。一体何処へ行く？

原田拓巳

1984年舞踏家宇野萬氏に師事。1990年からソロ活動開始。多数の舞踊家やアーティストと活動する。2000年代から「劇団DA・M」、「開座」、「アジア・ミーツ・アジア」の作業を中心に活動。失ってしまったものの記憶は風化していく。その断片はなまの感覚であるからか、、、今一度記憶の足跡をたどってみたい。徹底的にたどりそのご報告をしたい。

宮地成子

熊本生まれ。2001年から劇団黒テントに所属。劇団活動を拠点に、他団体のセリフ劇や身体パフォーマンスにも参加。今回DA・M初参加。“刹那をあなたと一緒に”と年始に願いつつアルクも、刹那はいつも私の前を逃げていく。刹那は何処に？

中島彰宏

1973年横浜に生まれる。2000年より劇団DA・Mに参加し国内外の公演に出演している。またプロト・シアターの運営と共に、Asia meets Asiaではアジア諸地域の参加者との共同作業を継続的し、ソロ公演「Zatoichi抄」(2006)、アーティストとのコラボレーション「断続的対話」(2009)「Earnest Struggle with Buddha」(2010)、ヒグマ春夫の「映像パラダイムシフトVol.52」(2013)も行っている。

“あー”がやってくる / “あー”がやってくる それでも生きていたい牛乳が飲みたい 洗濯物をたたまなくちゃ
ピンチが壊れてる コーヒーが足りない “あー”がやってくる 思い出したく無い事ども“あー”がやってくる /
うで アフガンの腕 / 笑い イラクの子供 爆撃音で耳も気も壊れた子供 / 母の死 足踏み 重い足重からだ 前に進めない
手に重いハンカチ 象の足 薄くもれる“ウ” / 目隠し あるいは あ・あ・あ・あ・あ / 二本の腕で 思い出 書斎の埃
階段の踊り場に居る 幼少期の希望 / 期待 / かかと / 足袋を後ろ手で脱いでいる 消えてゆく足 / だまし 口を塞ぐ
黙っている 身を隠す 偽善者 人をだます / タ・ス・ケ・テ 耳に低くこえる声 / トントン 無い 無い 無い 片足でトントン
/ 解放へ / のび / しゃがんでしまうからだ / 豆のようなからだ 悲しみがある？そして死体 そして背中が這い回る
/ 女へ / 股から覗く空と人 / わっ ワッ 覗き見る 見る / 告発 「ドイツ国境を過ぎた辺、〜」
最後列、壁に背を付け / 嫌 / 来て わたしと一緒に来ると来て はやく来て加速してほしい / 助けて / どっち

——ドイツ国境を過ぎたあたり、バスをバトカーが止めた。何人かのパスポートがドイツ警察の車に持っていかれ、一人はバスから降ろされ、わたしを含めた数人が荷物検査を受けている。バスが止まって1時間半になる。 / 彼女の唇は半ば開いている。夢見る動物のような呻き声は前より穏やかになる。頭は完全に眠り込んでいる。彼は身を屈め頭を彼女の胸の上に置き、子供の呻き声と心臓の一對の鼓動、子供の呻き声と心臓の怒りを聞く。海はあいかわらず満ち潮だ。川は一杯にふくれあがっている。土手は水浸しだ。海はますます地面に接近してくる。いたる所白い壁。その大通りには木がない。壁は数が増え、増殖し、切れたかと思うとまた続き、また切れ目が現れ、壁のために、顛かみが脈打ち、目が血走る。何本かの柱、観葉植物、白い壁、柱、植木。——

/ タケオ 兄、上杉中学で待つ。 / 黒い手袋 一泣く女 肘がくっついた腕で歩くように走るように進む手袋
 / 紙袋と炭カルゴミ袋と白い粉 一自爆テロ / ハイヒール 一逆さの足 / 小石 一インティファダ / 白いバスタオル 一
タスケテ 私はここに居ます / 黒い土 一白い服で土をこぼしながら歩く その土の上をのたうつ

アルク/Walking 2014

DA・MインプロヴィゼーションTheatrical Improvisation～for resistance



スタッフ

構成	共同構成
監修・演出Director	大橋宏 Hiroshi Ohashi
舞台美術 set designer	吉川聡一 Soichi Yoshikawa
	山崎久美子 Kumiko Yamazaki
舞台監督 stage manager	大澤竜太 Ryuta Ohsawa
通訳 translation	チェキユハ Chekyuha
翻訳協力	James Ferner
	松島仁美 Hitomi Matsushima
協力 cooperation	美保Miho
	今井あゆみ Ayumi Ima
	遠藤徳恵 Norie Endo
	比屋定尚美 Naomi Hiyajo
	大橋いくみ Ikumi Ohashi
Thanks	竹田賢一 Kenichi Takeda
	ヒグマ春夫 Haruo Higuma
照明 lighting	阿狩屋 AkariYa
宣伝美術 poster design	原田隆司 Ryuji Harada
記録写真 photography	中村和夫 Kazuo Nakamura
	荻原楽太郎 Rakutarō Ogiwara
記録ビデオ recording video	たきしまひろよし Hiroyoshi Takishima PLASTIC RAINS
プロト・シアター支援	南越谷メンタルクリニック／飯島毅
	新生産業(株)／佐藤照・渡部美保
制作協力 work assistance	霜村和子 Kazuko Shimomura
助成 supported by	日本芸術文化振興基金 JAPAN ARTS Council
企画・制作 produced by	DA・M http://homepage3.nifty.com/da-m/

プロト・シアターでのDA・M関連催しのご案内 是非ご参加ください。

国際演劇セミナー2013

インド特集 主催/日本演出者協会

2014年3月24日(月)→3月29日(土)

◎ワークショップ

3月24日～28日/プロト・シアター
料金3000円(全日参加)

◎レクチャー・シンポジウム

3月29日(土)/芸能花伝舎
料金500円

レクチャー「インド演劇の現在」

15:00～16:00 Rbijita Gogoi

シンポジウム「アジア演劇の抵抗と希望」

Rbijita Gogoi/花崎攝(俳優・ファシリテーター)
村山和之(アフガニスタン・パキスタン文化研究)
Hong SeungYi(俳優・韓国)/大橋宏(演出家)



Rbijita Gogoi

このワークショップでは、私がどの様に演劇を通してインドの現状での社会問題を加味してパフォーマンスを創るか、組み立てるか、パフォーマンス用のテキストを作成するか、パフォーマンスの中で物語層を作るか、という試みが展開されます。これらは実践的というよりはやや理論的な話になると思いますので、実践的な部分として、演技エクササイズと説明を交えた実践的な内容や、現代のインド人俳優がどの様に役を作り込むかということも混じえたワークショップにしていきたいと思っています。

ラヴィジタ・ゴゴイ

演出家、パフォーマンス・クリエイター(マルチメディア、パフォーマンス・アート、新テキスト付パフォーマンス)、シアター・アーツ・インストラクター、インド国立演劇学校、デザインと演出専攻、修士号取得(1997)。演出作品は『MEMOIR(脚本:ヒマンシュ・B・ジョシ、ニューデリー、2006年)』、『テクニカラー・ドリームズ(英語、ナガ語、アオラ語、セマ語)』(ナガランド、2008年)、インド系言語での演出作品に『Dhruvaswamini』(ニューデリー、1998年)や、ハロルド・ピンター『ダムウェイター(ヒンディー語)』(ニューデリー、1999年)での演出もある。また、翻訳、翻案に、『M・シング『海へ降り行く人々』(翻案)、マルグリット・デュラス『ラ・ミヅカ』(翻訳・翻案)パニシュール・ナス・レニユの物語(翻訳)など。著作は『ニクハル・ラゴニとアニヤ・ナタク(戯曲集)』がある。アジア・ミーツ・アジア2005、2006、2009(東京)に出演。【受賞歴】2006年 サンギート・ナタク・アカデミー、ウstad・ヒスマラ・カン賞受賞者、演劇作品賞 2005年 アカ・アボング・コイエクジヨン若手功績賞、演劇部門



渡部美保プロジェクト公演一第8回岸田理生アヴァンギャルドフェスティバル参加

「羊の住処～啞女より～」作:岸田理生/構成:共同構成/演出:大橋宏

出演:渡部美保+Baek, Dea-Hyeon(韓国,Korea)/Hong Seung-Yi(韓国,Korea)+佐藤照

日時:東京公演2014年7月2～5日 会場:プロト・シアター

予約・問合せ◎TEL 090-7847-2670(渡部)(E-mail) miho-wa@nifty.com

Asia meets Asia <AsiaTour 3>

Asia 6 cities Collaboration Project "Unbearable Dreams8 ~ Nowhere2"

■Aug.30～Sep.2 Tokyo ■Sep.6-7 Bangalore ■Sep.12-13 Hong Kong ■Sep.19-20 Busan